



毎月第3主日は日本キリスト教団の定めた
「日本伝道の推進を祈る日」です

共に祈るために

全国17教区が取り組んでいる伝道の働きを
2教区（東京は支区）ずつ紹介します。
全国の教区・教会・伝道所を覚えて
祈りをあわせましょう。

献金についての問い合わせは
日本基督教団事務局まで（TEL 03-3202-0541）

日本基督教団伝道推進 基本方針

- 祈祷運動 共に祈ろう
- 信徒運動 共に伝えよう
- 献金運動 共に献げよう

「日本基督教団全国伝道推進献金」
振替口座 00140-7-293436

祈りの課題

九州教区

- 地区・教区の働きを通して若者たちがつながり、キリストに結ばれていきますように。
- フィリピン合同教会の働きを覚え、支えつつ、つながることができますように。
- 在日大韓基督教会との宣教協約締結40年を覚え、交わりが深められますように。

四国教区

- 四国伝道のために共に祈り連帯して仕える、81の教会・伝道所、関係学校、施設の働きのために。
- 丹原教会と伊予長浜教会のために。

郵便振替01680-9-15047
「日本基督教団四国教区」

四国教区

私たち四国教区高知分区青年部のメンバーで、2023年10月9日に、高知県の山間部にある梶原町を訪れました。コロナ禍を経て、数年ぶりのお出かけイベントです。8教会から参加がありました。

梶原町の中心部には建築家の隈研吾が建てた「雲の上の図書館」があります。この図書館から歩いてすぐの場所に、梶原礼拝堂を行っている教会があります。梶原礼拝堂は、須崎教会と愛媛県の近永教会が協力して行っている伝道礼拝です。毎月第2と第4日曜日の夕方に長く続けられてきましたが、最近新しい会堂が与えられたのです。この会堂をぜひ見せていただきたく、青年部で訪問することにしました。

礼拝をささげ、その後は梶原礼拝堂を通して受洗へと導かれた方から、これまでの梶原伝道の歩み、またご自身がどのように信仰を持つに至ったのかという証しを聞きました。郵便局であった建物が新会堂として与えられた！ 参加した高知分区の青年たちは、この梶原の地に働いている神さまの大きな恵みとご計画を知り、皆一様に驚きました。

九州教区

九州教区の宣教協力部門は、主に3つの働きを通して多様な出会いを続けています。1つ目は在日大韓基督教会西南地方会との宣教協約の具体化です。過去に、合同で子どもキャンプや対抗ソフトボール大会などを実施してきました。10年前に「みんなで集まろう」をテーマに、阿蘇のホテルに集まり、1泊2日でさまざまな企画が行われ、交わりが深められました。昨年9月にはそのミニ版「みんなで『ちよつと』集まろう」を行い、礼拝、バーベキュー、韓国の民族音楽の演奏などで楽しく過ごしました。2つ目は、韓国基督教長老会群山老会と



梶原礼拝堂の前で

同じ高知県にたてられた教会と言っても、高知市内から梶原町までは、車で1時間30分かかります。頻繁に行き来するのは難しい距離ですが、この梶原町にも神さまを礼拝する会堂があり、礼拝がなされ続けていると覚えることができました。訪問することで、祈り合う関係を築くことができます。青年部では、高知分区の教会が伝道を行っている礼拝所や無牧となっている教会を訪問する活動を継続して行っています。訪問を通して、教会の未来を担う青年たちに、それぞれの地域にある教会の働きを覚えてもらうことを願っています。この試みをぜひお祈りに覚えてください。

（高知教会牧師 松浦子基）

の交流です。相互訪問や牧会者研修など、20年にわたり交流が続けられてきましたが、伝道資金による財政的困窮とコロナなどもあり、ここ数年は頻繁にはいきませんでした。しかし昨年3月、教区三役が群山を訪問し、第7次協約締結式を行いました。直後の九州教区総会では、歴代の老会長など8名の訪問団を迎え、協約締結20周年を共に感謝する時が持たれました。

3つ目がフィリピン教会との関わりです。フィリピン合同教会のシャル・ガボンリー牧師を窓口にも、毎年、高校生・青年を対象としたスタディツアーを行い、教会が貧困問題や少数民族への伝道に取り組む姿に触れてきました。ピナツポ火山噴火による火山灰の大地を、水牛に乗って3時間旅して出会う少数民族との関わりは、若者だからこそできる、何ものにも代えがたい体験です。2月には4年ぶりにスタディツアーが実施されます。

各教会が高齢化し、若者が少ないと言われる中、若者たちが孤立せず、さまざまな関わりを通してつながっていきけるよう、地区や教区が出会いや学びの場を作り出していく。そんな働きを大事にしています。

（九州教区総会議長 日下部道志）



2020年2月、フィリピンでのスタディツアー。水牛に乗って先住民族の地、ピントランへ